

前期プログラミング課題  
C1081183 菅原絵里

最初にプログラミングをした時は、「広瀬先生に少し教わっていたから大丈夫だ」と思っていました。現に最初の授業でも結構楽にできたし、わからなくなはなかったのだからちゃんとメモさえしておけば問題ないと思ってました。

しかしどんどん授業の内容についていけなくなり、解くに while 文のあたりからよくわからなくなり、課題はぼろぼろでした。

最初は A 評価をとっていたのに、徐々に B、C と下がっていくのが悔しかったです。時間をかけてもかけても評価は変わらない。何が悪いのかと考える日が続きました。

でもその時先生が「プログラムを覚えさせるのが目的じゃない。なぜそうなるのかと説明できる力をつけさせるためだ。」と言ってくれたのが自分の中できっかけになりました。

プログラムをなんとなくできる人に聞き、二進数や十進数の計算をしていては説明ができないのは当たり前です。自分ではわかっていないのですから。

自分なりに理解をし始めてからは少しずつできていくようになりました。

それと同時にプログラムの楽しさもわかりつつあります。

前回の自由課題が特にそうでした。正直言うと、「ゲームなんて難しいから無理に決まってるし、実用のものにしよう」と考えていました。しかし、ライバル兼共同学習者がゲームを作ろうかなと言っていたので闘争心がわきました。なんと言ってもこのプログラミングでは共同学習者の力が大きかったと思います。

終わらない課題を一緒にやることで励みにもなったし、わからないことを一緒に考えたり先生に質問したり、たまにはライバル同士競ってみたり…

もちろん先輩方や先生方にもお世話になったけれど、まず最初に御礼を言うなら、いつも協力してくれた共同学習者の友人に御礼を言いたいです。

後期のプログラムに対して不安がないとは言えません。また課題増えるのかなとか、もっと高率よくできないのかなとか考えてしまいます。

でも少なくとも今はグループの仲間もいるし、共同学習者だっていっぱいいてくれる。それは後期の授業でも変わらないのではないのかと思うと、不安もなくなるような気がします。そうやって、後期のプログラミングも一所懸命頑張っていきたいと思います。

西村先生、後期もよろしくお願いします。